

## 大草谷津田いきものの里 自然観察会

### タネの旅立ち

遠藤登志子（千葉市）

日 時：2018 年 11 月 4 日（日）10 時 30 分～12 時 天候：曇り

参加者：8 名（大人 7 名、子ども 1 名）

担当指導員：松本美千代・遠藤登志子、参加指導員：岡田敬子・山下美佐子

事前に 50 枚ほどの名前札を、今日見てもらう植物に付けておいた。それぞれのタネの旅立ち方を 6 つに分類した一覧表（植物のある場所も記入）を大人に手渡す。6 分類は、1）風に運ばれて 2）自分ではじけて 3）水に運ばれて 4）動物の貯食 5）動物に運ばれて 6）鳥に食べられて とした。

駐車場や、入口広場でノゲシとタンポポのタネを吹き、イヌシデの果穂から羽付きのタネをはずして飛ばしてみた。次にムクノキの実を、鳥になった気持ちで食べてもらった。鳥は タネを消化できず、あちこちに排泄する。タネの落ちたところの条件が良いと発芽できることを伝えた。ノブドウとアオツヅラフジの実をつぶすと、果肉がとろりとしていて 鳥はつるっと種ごと飲み込めるのがわかる。

林の入口のヒノキ・スギ・サワラの球果を紹介し、白い紙の上でサワラの球果をトントンとたたくと小さなタネがパラパラこぼれた。林の中では鳥が運んだタネから芽生えたアオキやシュロ、マンリョウなど 15 種ほどの植物とミズヒキやイノコヅチなど動物に運ばれてきた植物などを観察した。ケヤキの大木の下には、小さな葉に実を付けた小枝が落ちている。ケヤキはこの小枝ごと回転して旅することを話し、飛ばしてみた。

水の旅をする植物を紹介するため、ジュズダマとクルミを水路に入れ、流れる様子を見てもらった。その後、そばのオオモミジの翼果や持参したボダイジュを皆で飛ばし、回転の仕方を観察した。

最後にガガイモやキリ、プラタナスなど、今日見なかったタネを展示して見てもらった。

人数が少なかったので、参加指導員の協力に助けられて、多くの質問にも対応できた贅沢な観察会になった。



高速回転で遠くまで旅してね